

世界遺産と「野山・地獄谷国有林」

のやま じごくだに

奈良森林管理事務所

奈良は、古代から政治の中心として発展し、また大陸文化を積極的に取り入れ外来文化と仏教が開花したところです。奈良県の中央部に位置する飛鳥地方に西暦694年に最初の本格的な都城・藤原京が造営されるなど古代日本の中心舞台でもありました。その後、西暦710年に都は奈良の平城京に移り、以降74年間、古代日本の首都として繁栄しました。

このようなことから、奈良・斑鳩をはじめとする県内各地の古社寺には、古代日本史を代表する建造物・佛像等が数多くあり、国宝・重要文化財の数は、東京・京都に続いて全国3位(1387)、国宝の建造物に限れば全国1位(71棟)となっており、これらの文化財は、1993年(平成5年)に日本で初めて「法隆寺地域の仏教建造物」が世界遺産に、1998年(平成10年)には「古都奈良の文化財」が登録されました。

この二つの世界遺産のバッファゾーンにある国有林を紹介します。「法隆寺地域の仏教建造物」は、2箇所の寺院(法隆寺・法起寺)からなり、



法隆寺から見た野山国有林(写真中央)

飛鳥時代の様式を伝えるものとして世界最古の木造建築として知られていますが、その、法隆寺の借景の一部を担うのが野山国有林です。野山国有林は斑鳩町の北西部に位置する面積27畝の小団地で、全域が風致保安林に指定されており典型的な里山として地域の人たちに親しまれています。また、全域を木造文化財の修復に必要な檜皮や木材などを供給することを目的とした「世界遺産貢献の森」に設定しております。

「古都奈良の文化財」は、世界最大の木造建造物である東大寺をはじめ8つの資産で構成され、5箇所の寺院(東大寺・興福寺・元興寺・薬師寺・唐招提寺)、1箇所の神社(春日大社)、2箇所の遺跡(平城宮跡・春日山原始林)からなっていますが、この貴重な世界文化遺産等の緩衝地帯として、忍辱山・菩提山・地獄谷・寺山国有林が重要な役割を担っています。その中でも、世界文化遺産として登録された「春日山原始林」に隣接し、かつては、興福寺大乘院領地であった地獄谷国有林(約100畝)は奈良市街地東方にあり、手軽なハイキングコースも整備されており、奈良市民の憩いの場となっています。また、この国有林には平安・鎌倉時代にかけて僧侶達の修行の場であったことから修行僧が彫ったと言われる石仏が点在していることや、江戸時代の頃には柳生道場を目指す多くの剣豪達



滝坂の道と石仏群(上:地獄谷石窟仏、下:春日山石窟仏)

が往来した柳生街道(滝坂の道)が林内を通っていることもあり、県内外から多くのハイカーが訪れています。奈良森林管理事務所では、このほかにも世界文化遺産等の周辺に所在する国有林を各々の森林の特徴、過去の森林の取扱いの経緯等を踏まえ、327箇所を世界文化遺産貢献の森林として設定しています。「世界遺産」の観光とあわせて奈良の国有林を訪れてみてはいかがでしょうか。



奈良市内及び近隣の国有林

〒630-0803
奈良市赤膚町一四三二一〇
TEL050-3160161
FAX074-2153115
http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/nara